

経営比較分析表（令和5年度決算）

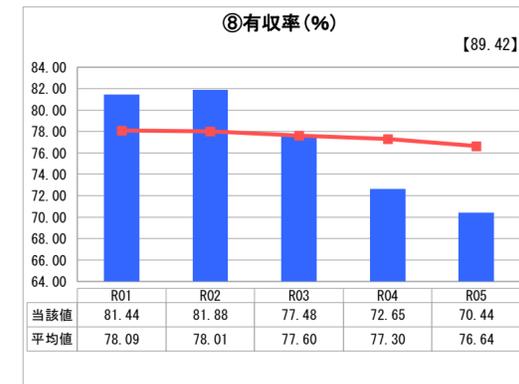
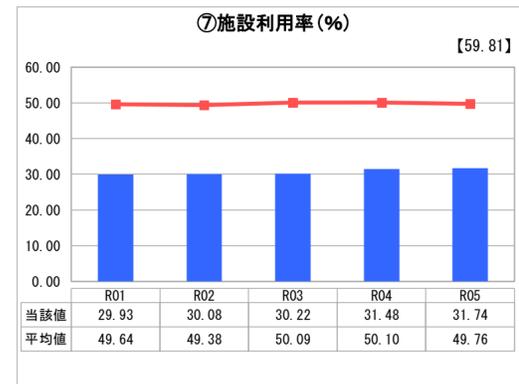
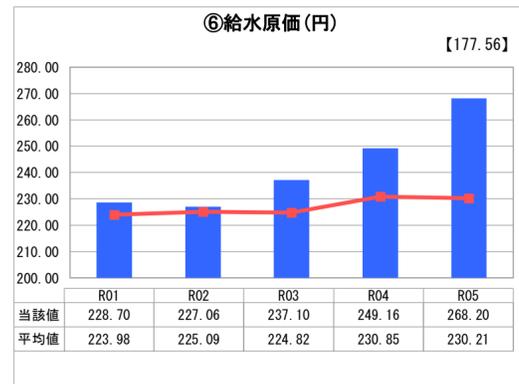
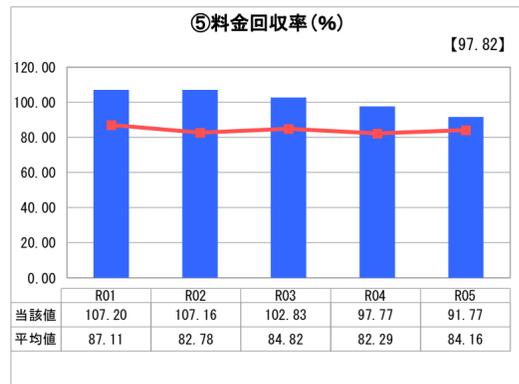
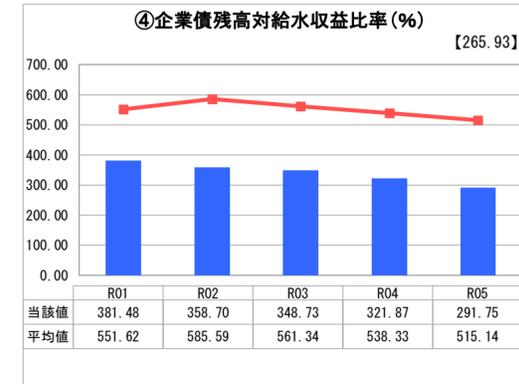
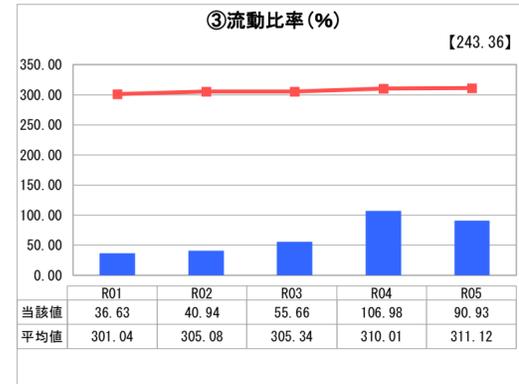
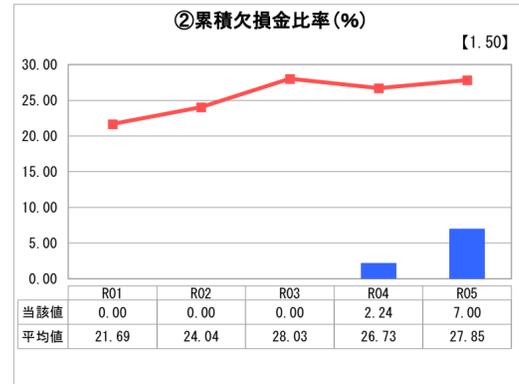
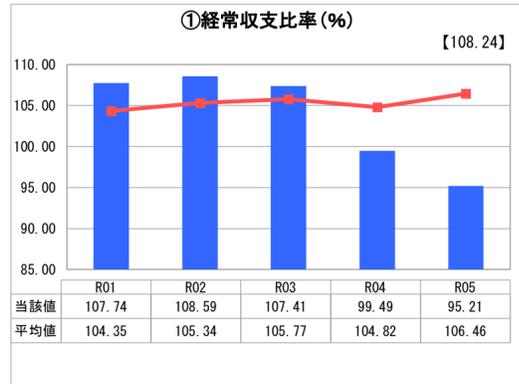
神奈川県 真鶴町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	56.45	100.00	3,747	

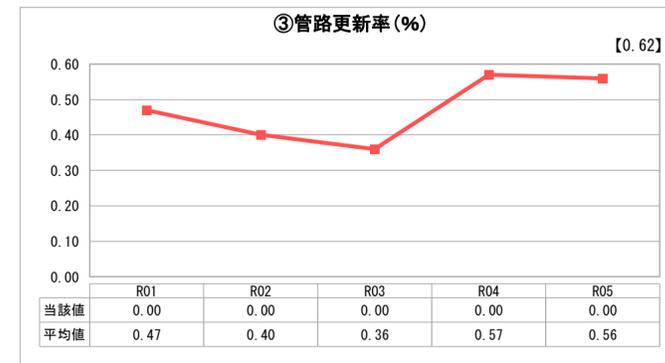
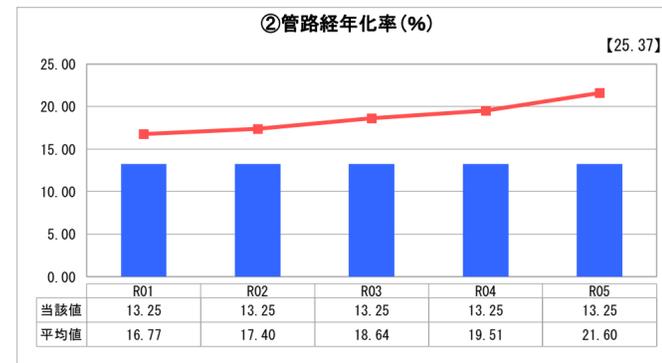
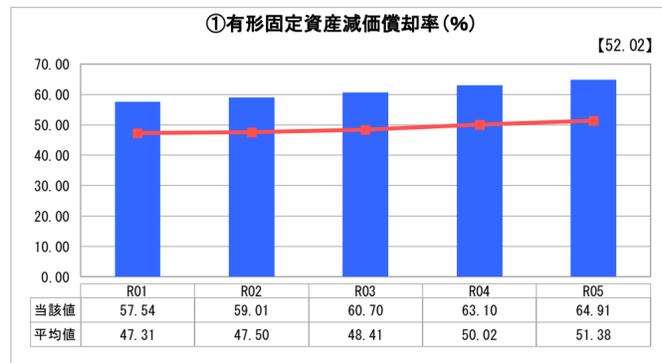
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,710	7.05	951.77
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
6,637	7.02	945.44

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

前年度決算に比べ、営業費用が増加している一方、使用料収入が減少したことから、経常収支比率は前年度に引き続き100%を下回り、累積欠損金比率も上昇しております。

流動比率は、前年度と比べ低下し、類似団体平均値を大きく下回る水準となっています。これは、流動負債に占める企業債償還額の減少より、累積欠損金の増に伴う現金預金の減少が大きく、水準が低下しています。

企業債残高対給水収益比率は、近年、企業債償還額を超える借入を行ってならず減少傾向で推移しているものの、今後は管路更新や施設の改築・更新を計画的に実施することで企業債残高が増加していくことも考えられます。

決算状況を経年比較すると、給水人口・使用量の減少等により有収水量・給水収益が減少する一方、給水原価は増加傾向にあることから、料金回収率は毎年減少し前年度からは100%を下回るなど、厳しい経営状況となっています。

施設利用率は、若干の増加傾向にあるものの、類似団体平均値よりも低い水準となっています。各施設の利用状況や適切な施設規模を把握・分析することにより、施設維持管理費等費用の更なる削減を図る必要があります。

有収率は年々低下傾向にあり、類似団体平均値を下回る状況となっています。管路の老朽化等による漏水も多く生じていることから、計画的に管路の更新を進め、有収率の改善に努める必要があります。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値より高い水準で毎年増加傾向にあることから、管路・施設等の老朽化が進んでいる状況にあります。

一方、管路経年化率は、類似団体平均値より低い水準となっていますが、漏水に係る修繕工事も毎年多く発生している中、過年度と同様の数値で推移していることから、管路老朽化の実態を的確に把握できていない状況が生じております。

また、管路が老朽化している中、管路更新を実施できていないため、管路更新率を上げることができていません。

今後は、施設等の老朽化がますます進む中で、耐用年数等も考慮しつつ、施設と管路を総合的にみた優先順位をつけ、事業費の平準化を図りながら計画的な更新を行っていく必要があります。

全体総括

前年度同様、厳しい経営状況は続いています。

料金回収率は低下傾向ですが、類似団体平均値との差は縮小してきています。

収入の基盤である給水収益の増加対策として料金改定を検討しており、経営の黒字化及び管路更新費用が発生することにより、累積欠損金比率の解消や管路更新率の向上が見込まれますが、具体的な検討は令和7年度中に実施となることから、それまでの間は厳しい経営状況が続く見込みです。